

図書館の機能移転(案)について

●「第2次生涯学習基本構想」「高浜市生涯学習基本計画〔後期〕」における考え方●

図書館は、これまで培ってきた「子どもに特化した図書館」という強みを活かすとともに、「ひととまちを育む場」として、市民の力も活かしながら、市民の「知りたい」「行動したい」といった想いを下支えする相談・支援機能、読み聞かせや読書活動などを通じた市民の交流機能を重視した運営を目指します。

1. 「図書館のいま」と高浜市の図書館が目指す姿

第9期中央教育審議会の答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年)でも触れられているように、いま、各地で自治体の「図書館」は変化し、図書の貸出だけではなく、楽しめる読書空間や課題解決型の機能を重視する等、これまでとは違った切り口も着目されてきている。

高浜市では以下のような視点をもち、市民の皆さんの交流や好奇心を応援し、困りごとに寄り添い解決の手助けをする『くらしや生き方をささえる図書館』を目指すとともに、子どもたちへのアプローチを重視する。生涯学習の観点からも、図書館がまちの底力をアップする場となることを目標とする。

<1> 貸出重視の図書館運営からの転換

本を「何冊貸し出したか」ではなく、「手に取った人にどんな効果があったか」を重視する。「知りたい」「行動したい」といった想いを下支えするレファレンス機能の重視、読み聞かせや読書活動など図書を軸にした交流活動も活性化する。

<2> 子どもへのアプローチ、高浜市立図書館が培ってきた強みを活かす

充実した児童書は特色・強みとして維持し、子育て子育ての有力な支えとなることを目指す。「えほんの森」を開設して以降、絵本や児童書に力を入れてきた姿勢を維持し、充実を図る。

<3> 図書との出会いの機会を広げる

既存施設への複合化で、より身近に図書を届け、課題解決等の相乗効果を生み出すことを目指す。暮らしや自己実現を支えるツールとして、これまで利用しなかった方が本に出会える機会を増やす。

2. 図書館機能の移転と複合化の効果

「公共施設総合管理計画」に基づき、保全の取組対象施設(今後も継続して維持していく施設)に図書館機能を移転する検討のなかで、複合化の波及効果が高いと考えられる「かわら美術館」「いきいき広場」を候補とした。市民団体への出張座談会や2回のフォーラムにおける参加者意見等を踏まえ、開架冊数だけでなく機能移転後の波及効果を最大限に生かす可能性の高さを考慮すると、2施設の併用案が最も効果的であると考えられる。

場所	どのような排架ができるか	期待される波及効果
①かわら美術館	一般図書を中心に、アート・郷土資料に力をいれた配架などが考えられる。まちの自慢を伝える。	美術と図書の融合、森前公園の活用やロケーションの映える、高浜市の中では随一の、非日常空間へ誘う文化拠点としての効果が期待できる。
②いきいき広場	いきいき広場利用者の目的に沿った選書とし、市民(特に子ども)の学び・成長・自己実現に資する図書、市民の生き方・くらしの支援につながる排架が考えられる。	福祉や介護、障がい、子育て・子育ての相談の場、保健センター機能として乳幼児の健診の場、マシinstudioやクッキングスタジオなどを備えた、まちの中心地であり、各種事業との連携がしやすくなる効果が期待できる。

3. その他

- 機能移転後の現図書館・郷土資料館は倉庫とし、大規模改修等は行わない予定。かわら美術館及びいきいき広場は図書館機能の移転先とならなくても、今後も維持費が必要な施設である。
- 機能移転以降も運営は指定管理者(令和4年度に新規公募)によるものとし、2施設の現状の指定管理料を目安に調整する予定。

高浜市立図書館機能移転後のイメージ

●基本的な考え方●

- ①図書館機能は「かわら美術館」と「いきいき広場」の一部の居室やスペースに移転する。
- ②郷土資料館機能は「かわら美術館」へ統合し、郷土資料は美術館等での活用を計画する。
- ③現在の市立図書館・郷土資料館の建物は一般開放せず、閉架書庫及び郷土資料等の保管庫として当面使用する。
- ④吉浜・高取図書室や「いつでもどこでも図書館」の機能を周知し、図書を身近に提供する。

利用居室のイメージ

